

2025年度 50期生 2年次 カリキュラム 一覧

分野	学科目	学習内容	単位	講義時間	講義回数	講師名	配点	実務経験の有無	ページ		
基礎分野	情報科学	情報の基礎（リテラシー、ICT、倫理等）	1	30	30	15	外部講師	100	無	1	
	人間関係論Ⅱ	保健医療における人間関係	1	15	15	8	外部講師（臨床心理士）	100	有	2	
	文学		1	30	30	15	外部講師	100	無	3	
	英語Ⅱ	臨床英語	1	30	30	15	外部講師（医師）	100	無	4	
専門基礎分野	臨床治療論	循環動態	1	15	8	4	実習指導教員（看護師）	50	有	5	
	臨床治療論	抗がん剤			7	4	済生会職員（看護師）	50			
	公衆衛生学	公衆衛生、疫学、など	1	15	15	8	外部講師（医師）	100	有	6	
	公衆衛生と健康支援	公衆衛生と保健活動	1	15	15	8	外部講師（医師）	100	有	7	
	社会保障制度	社会保障制度と社会福祉	1	15	15	8	済生会職員（社会福祉士）	100	有	8	
	社会福祉活動	社会福祉実践と医療・看護	1	15	6	3	済生会職員（社会福祉士）	40	有	9	
	社会福祉活動	社会福祉実践と医療・看護			4	2	済生会職員（社会福祉士）	25			
	社会福祉活動	介護保障			5	3	済生会職員（社会福祉士）	35			
関係法規		1	15	15	8	済生会職員（事務職）	100	無	10		
地域・在宅看護論	看護研究Ⅰ	看護研究	1	15	11	6	専任教員（看護師）	100	有	11	
	看護研究Ⅰ	済生会看護学生研究会			4	2	専任教員（看護師）				
	臨床看護技術		1	15	15	8	専任教員（看護師）他	100	有	12	
	地域・在宅看護論概論	特徴と健康課題・家族の理解	1	30	16	8	教務主任（保健師）	50	有	13	
	地域・在宅看護論概論	サービス・社会資源			12	6	済生会職員（看護師）	50			
	地域・在宅看護論概論	ケアマネジメント	1	15	2	1	済生会職員（介護支援専門員）	100	有	14	
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	介入時期別の看護			13	7	専任教員（看護師）				
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	退院支援	1	30	2	1	済生会職員（看護師）	20	有	15	
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	症状別看護、在宅看護技術			6	3	済生会職員（看護師）				
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	症状別看護、在宅看護技術			10	5	済生会職員（看護師）				30
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	症状別看護、在宅看護技術	1	30	14	7	外部講師（看護師）	50	有	16	
	地域・在宅看護援助論Ⅲ	在宅における看護の展開			30	15	専任教員（看護師）	100			
	成人看護学	成人看護援助論Ⅱ（周手術期の看護）	総論・開腹術・開胸術を受ける患者の看護	1	30	14	7	専任教員（看護師）	50	有	17
		成人看護援助論Ⅱ（周手術期の看護）	手術を受ける患者の看護過程			16	8	専任教員（看護師）	50		
		成人看護援助論Ⅳ（慢性期の看護）	嚥下障害をもつ患者の看護	1	30	4	2	済生会職員（看護師）	10	有	18
		成人看護援助論Ⅳ（慢性期の看護）	嚥下障害をもつ患者の看護			6	3	済生会職員（看護師）	20		
成人看護援助論Ⅳ（慢性期の看護）		腎機能障害をもつ患者の看護	8			4	済生会職員（看護師）	30			
成人看護援助論Ⅳ（慢性期の看護）		セルフケアの必要な患者の看護過程	12			6	専任教員（看護師）	40			
成人看護援助論Ⅴ（終末期の看護）		緩和ケアの看護の概要	1	30	4	2	済生会職員（医師）	15	有	19	
成人看護援助論Ⅴ（終末期の看護）		自己決定			6	3	済生会職員（医師）	25			
成人看護援助論Ⅴ（終末期の看護）		身体症状のマネジメントケア			10	5	済生会職員（看護師）	30			
成人看護援助論Ⅴ（終末期の看護）		全人的ケアの実際			10	5	済生会職員（看護師）	30			
老年看護学	老年看護援助論Ⅰ（生活援助技術）	演習	1	30	30	15	専任教員（看護師） 実習指導教員（看護師）	100	有	20	
	老年看護援助論Ⅱ（健康障害時の看護）	回復を促す看護	1	30	8	4	済生会職員（看護師）	25	有	21	
	老年看護援助論Ⅱ（健康障害時の看護）	治療を受ける高齢者の看護			8	4	済生会職員（看護師）	25			
	老年看護援助論Ⅱ（健康障害時の看護）	認知症、家族、多様な場、災害			14	7	済生会職員（看護師）	50			
	老年看護援助論Ⅲ（看護過程）	看護過程	1	15	15	8	専任教員（看護師）	100	有	22	
小児看護学	小児看護援助論Ⅰ（小児特有の疾患と看護）	小児特有の疾患	1	30	20	10	済生会職員（医師）	70	有	23	
	小児看護援助論Ⅰ（小児特有の疾患と看護）	疾患の看護			10	5	済生会職員（看護師）	30			
	小児看護援助論Ⅱ（様々な状況にある小児と看護）	様々な症状に対する看護	1	30	14	7	済生会職員（看護師）	50	有	24	
	小児看護援助論Ⅱ（様々な状況にある小児と看護）	検査・治療に対する看護			16	8	教務主任（看護師）	50			
	小児看護援助論Ⅲ（看護過程）	看護過程	1	15	15	8	教務主任（看護師）	100	有	25	

分野	学科目	学習内容	単位	講義時間	講義回数	講師名	配点	実務経験の有無	ページ		
専門分野	母性看護学	母性看護援助論Ⅰ(周産期の経過)	1	15	10	5	外部講師(医師)	70	有	26	
		母性看護援助論Ⅰ(周産期の経過)			5	3	済生会職員(医師)	30			
		母性看護援助論Ⅱ(妊娠期・分娩期の看護)	1	30	12	6	済生会職員(看護師)	40	有	27	
		母性看護援助論Ⅱ(妊娠期・分娩期の看護)			6	3	専任教員(看護師)	20			
		母性看護援助論Ⅱ(妊娠期・分娩期の看護)			10	5	済生会職員(助産師)	35			
		母性看護援助論Ⅱ(妊娠期・分娩期の看護)			2	1	専任教員(看護師)	5			
		母性看護援助論Ⅲ(産褥期・新生児期の看護)	1	30	8	4	済生会職員(助産師)	25	有	28	
		母性看護援助論Ⅲ(産褥期・新生児期の看護)			10	5	専任教員(看護師)	35			
		母性看護援助論Ⅲ(産褥期・新生児期の看護)			6	3	済生会職員(助産師)	20			
		母性看護援助論Ⅲ(産褥期・新生児期の看護)			6	3	専任教員(看護師)	20			
		母性看護援助論Ⅲ(産褥期・新生児期の看護)			6	3	専任教員(看護師)	20			
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	14	7	済生会職員(臨床心理士)	50	有	29	
		精神看護学概論			16	8	外部講師(看護師)	50			
		精神病態臨床学	1	30	10	5	外部講師(看護師)	25	有	30	
		精神病態臨床学			14	7	外部講師(医師)	50			
		精神病態臨床学			6	3	済生会職員(医師)	25			
		精神看護援助論Ⅰ(精神看護の基礎)	1	15	15	8	外部講師(看護師)	100	有	31	
		精神看護援助論Ⅱ(看護の展開)	1	30	16	8	外部講師(看護師)	50	有	32	
		精神看護援助論Ⅱ(看護の展開)			14	7	外部講師(看護師)	50			
	看護の統合と実践	災害看護と国際看護	災害看護の概要と展開	1	30	12	6	済生会職員(看護師)	40	有	33
			災害救護訓練			8	4	専任教員(看護師)	25		
			災害時に必要な技術			6	3	済生会職員(看護師)	20		
			国際看護			4	2	外部講師(看護師)	15		
		医療安全	1	15	15	8	済生会職員(看護師)	100	有	34	
臨地実習	基礎看護学実習Ⅱ		2	90	実習要項参照	専任教員(看護師)	100	有			
実務経験「有」の教員等の授業科目の単位数合計								36			

【1単位 認定試験の受験資格】

- ①講義回数 8回の場合： 6回以上出席が必要
- ②講義回数 15回の場合： 10回以上の出席が必要
- ③講義回数 23回の場合： 16回以上の出席が必要

*前年度単位認定されていても、再履修し60点未満であった場合再試験は受験すること。

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	情報科学			担当講師名	外部講師
対象学生	2学年	単 位	1単位（30時間）	実務経験	無
授業目標	まずは、学校でのレポート作成に必要なテクニックを、次に「医療現場に役立つソフトウェアの技能を身につけること」を目的とし、Word、Excel、PowerPointの豊富な機能を使い、病院実務に活用できるレベルの技術を習得することで、情報伝達システムを知り、情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力を養う。				
授業計画	■ WORDでレポートの正しい書き方と共にビジュアルは資料の作成方法を学ぶ。 （文章作成、字体、文字の大きさ、文字の色、作表、作図） ■ EXCELで表形式のデータ入力ができる。 （作表、作図、セルの大きさ、セルの結合、字体、文字の色、文字の位置） ■ EXCELでデータの集計や簡単な統計処理とグラフの作成ができる。「分析ツール」を中心に、統計学の基本的な考え方と実際の計算方法等を学ぶ。 ■ PowerPointでプレゼンテーションができる。 Microsoft PowerPoint を使用して、プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーション資料の作成を学ぶ。 （作図、作表、字体、文字の大きさ、文字の色、図形の使用） ■ WordやExcelデータをパワーポイントへ利用する方法を学ぶ。（2つ以上のアプリケーションの利用方法） ■ 基礎統計について学ぶ。 データの分類とまとめ方・基礎統計学の理解と計算について理解する。 ■ ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識して、ファイル・データの管理を学ぶ。 ■ 情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：諸作兼法など、主にインターネットに関する現状を知り、対処方法について理解を深める。また、掲示板の特性を理解し、正しい使い方を学ぶ。				
教科書	30時間アカデミック Office2021 Windows11 対応 実教出版 ISBN：978-4407359435				
参考書					
授業の進め方	パソコンを利用して、授業を進める				
評価の方法	課題提出（30%）、筆記試験（40%）、授業・演習課題へ取り組む姿勢（30%）で評価				
メッセージ	「情報」と「コミュニケーション」の専門職である看護師にとって、ICT（Information and CommunicationTechnology）は、その専門性を発揮するために必要不可欠なものである。 「看護」の実践や学問としての「看護学」に活かしてほしい。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	人間関係論Ⅱ			担当講師名	済生会職員
対象学生	2学年	単 位	1単位（15時間）	実務経験	臨床心理士としての 実務経験有
授業目標	他者を理解しよりよい人間関係をつくるための理論や技法を学ぶ。 看護における人間関係に関する特徴や課題を理解する。				
授業計画	1. カウンセリングと心理療法 （1）カウンセリング・心理療法の理論とスキル （2）看護への応用 2. 患者を支える人間関係 （1）患者・医療者関係 （2）患者・看護師間の相互作用の評価 （3）さまざまな看護場面における人間関係 3. 家族を含めた人間関係 （1）家族関係論 （2）家族看護の展開 （3）さまざまな状況・患者と家族の看護 4. 地域をつくる人間関係 （1）個人を取り巻く人間関係 （2）ピアサポートを通じた人間関係 （3）人間関係の集合としての地域の力 （4）人間関係の力が最大になる社会				
教科書	医学書院 人間関係論				
参考書	特になし				
授業の進め方	講義 個人ワーク グループワーク 上記授業計画の内容について、適宜補足しながら解説する				
評価の方法	筆記試験				
メッセージ	自分のコミュニケーションがどんなものか客観視できると、人間関係が見え、関りが楽になります。 日常の人間関係、臨床での人間関係、そのコミュニケーションについて考えます。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	文学			担当講師名	外部講師
対象学生	2学年	単 位	1単位（30時間）	実務経験	無
授業目標	文学作品を通して、様々な時代や文化を背景とした人々の生活や人生に触れ、豊かな情緒、感性を磨く。また幅広い視野と表現力を養う。				
授業計画	古典文学からは『伊勢物語』や清少納言『枕草子』、近代文学からは森鷗外『高瀬舟』、現代文学からは田宮虎彦『沖縄の手記から』や筒井康隆『瀕死の舞台』などの作品を読む。登場人物の気持ちを味わい、価値観は一つではないことを学び、己とは異なる価値観であっても無理に理解しようとせず、異なる価値観ごと相手を受け入れることができるようになってほしい。 また、可能であれば文芸に携わる人を呼び、話をしてもらう。 『さくらさくらさくら』……人はどのように桜の美しさを感じているのか。その相似性・相違性。 『沖縄の手記から』……人を癒すとは、人に必要とされるとは、居場所を見つけるとはどういうことか。 『高瀬舟』『ルリボシカミキリの青』……あの頃に読んだ作品を今もう一度読み返したら、見えるものがあるのでは。 『瀕死の舞台』……近い人が死ぬとは、自分が死ぬとは、どういうことか。				
教科書	なし				
参考書	文学とは書物が全てではない。 あなたが友人や家族、恋人と送り合うSNSも、好んで聞く音楽も、全てがあなた自身を耕す文学となる。				
授業の進め方	基本は講義形式。扱う作品の朗読は受講者に担当してもらう予定。講義の内容に関係する文章を毎回書いてもらう。				
評価の方法	毎回受講時に書く文章を含めた受講態度が60%、期末レポートが40%。期末レポートは13回講義（7/24）までにテーマを発表し、最終講義（9/18）に原稿用紙に記述してもらう。持ち込み可。				
メッセージ	文学者も同じ人間なので、特段受講に際し構える必要はない。楽しんでほしい。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	英語 II			担当講師名	外部講師
対象学生	2学年	単 位	1単位（30時間）	実務経験	無
授業目標	看護活動に必要な基礎的な英語を習得する。				
授業計画	1回でlessonを一つずつ教えて、前半lesson1-6でテストを行い50の単語の日本語の意味の理解度をチェックする。また後半でもlesson7-12も同様に行う。 すべてが終わったら、岡山県下で研修を行っている外国人（多くはアジア人）を招いて、英語で外国人と意志を疎通させることの大切さを理解してもらう。 1.Checking in 2.General Consultation 3.Vital Signs 4.Admission and Orientation to the Hospital Routine 5.Data Collections from Patients 6.Daily Activities 7.筆記試験(前半) 8.Tests 9.Procedures 10.Positioning the Patient in Bed 11.Bath and Comfort 12.Patient Teaching 13.Small Talk 14.外国人（医療従事者）との交流 15.筆記試験（後半）				
教科書	仁木久恵、他「臨床看護英語」医学書院				
参考書	浜家一雄「カルテを読むための医学用語・略語ミニ辞典」医学書院				
授業の進め方	学生に教科書を読んでいただき、正しい発音を理解して、医学英語の基礎を習得する。				
評価の方法	講義時間の中で2回筆記試験を行い、その平均点で評価する。				
メッセージ	カルテに書いている医学英語が理解でき、国際的な視野に立って活躍できる看護師を目指していただきたい。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	臨床治療論			担当講師名	実習指導教員、済生会職員
対象学生	2学年	単 位	1単位（15時間）	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	解剖生理学・病態臨床学・病理学・薬理学等の知識を統合させ、臨床判断能力の基盤を学ぶ。				
授業計画	1. 循環器疾患を持ち薬物療法を行っている患者の事例（実習指導教員 8時間） 1) 事例紹介と事例の患者の解剖生理 2) 事例の患者の病態生理学 3) 事例の患者に必要な検査・治療・処置における合併症と根拠 4) 事例の患者に必要な看護の視点 2. がん化学療法を行っている患者の事例（済生会職員 7時間） 1) 事例紹介と事例の患者の解剖生理 2) 事例の患者の病態生理学 3) 事例の患者に必要な検査・治療・処置における合併症と根拠 4) 事例の患者に必要な看護の視点				
教科書	人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院 疾病のなりたちと回復の促進〔2〕病態生理学 医学書院 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学 医学書院 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院 成人看護学〔3〕循環器 成人看護学 医学書院 成人看護学〔4〕血液・造血器 医学書院 がん看護学 医学書院				
参考書					
授業の進め方	講義、アクティブラーニング				
評価の方法	筆記試験				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	公衆衛生学			担当講師名	外部講師
対象学生	2学年	単 位	1単位（15時間）	実務経験	医師としての実務経験有
授業目標	生活環境における種々の有害因子と幅広い組織的な公衆衛生活動について学ぶ				
授業計画	1.公衆衛生のエッセンス 2.公衆衛生の活動対象 3.公衆衛生のしくみ 4.疫学、保健統計 5.環境と健康 6.感染症とその予防対策 7.国際保健				
教科書	社会保障制度と生活者の健康（2）公衆衛生（医学書院）				
参考書	国民衛生の動向				
授業の進め方	上記の授業計画に従って行う				
評価の方法	筆記試験				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	公衆衛生と健康支援			担当講師名	外部講師
対象学生	2学年	単 位	1単位（15時間）	実務経験	医師としての実務経験有
授業目標	日常生活の場で実際に行われている公衆衛生活動について学ぶ				
授業計画	1. 母子保健・成人保健、高齢者保健 2. 精神保健・障害者保健・難病保健 3. 学校と保健 4. 職場と保健 5. 健康危機管理・災害保健				
教科書	社会保障制度と生活者の健康（2）公衆衛生（医学書院）				
参考書	国民衛生の動向				
授業の進め方	上記の授業計画に従って行う				
評価の方法	筆記試験				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	社会保障制度			担当講師名	済生会職員
対象学生	2学年	単 位	1単位（15時間）	実務経験	医療ソーシャルワーカーとしての実務経験有
授業目標	社会保障の理念と基本的な制度の考え方を学ぶ				
授業計画	1. 社会保障制度と社会福祉 2. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 3. 所得保障 4. 社会福祉の分野とサービス 5. 社会福祉の歴史				
教科書	社会保障・社会福祉（医学書院）				
参考書					
授業の進め方	講義（パワーポイントや関連のある内容のDVDを使用）				
評価の方法	筆記試験				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	社会福祉活動			担当講師名	済生会職員
対象学生	2学年	単 位	1単位（15時間）	実務経験	医療ソーシャルワーカーとしての実務経験有
授業目標	生活者の生活問題に対する法律に基づいた社会福祉活動と課題について学ぶ				
授業計画	1. 介護保障 （済生会職員:3回 5時間） 1)介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 2)介護保険制度の概要 3)介護保険制度の課題と展望 2. 医療保障 （済生会職員:2回 4時間） 3. 公的扶助 （済生会職員:3回 6時間） 4. 社会福祉実践と医療・看護				
教科書	社会保障・社会福祉（医学書院）				
参考書					
授業の進め方	講義（パワーポイントや関連のある内容のDVDを使用）				
評価の方法	筆記試験				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	関係法規			担当講師名	済生会職員
対象学生	2学年	単 位	1単位（15時間）	実務経験	無
授業目標	保健、医療、福祉に関係した法規や法のしくみなど看護に必要な法令について学ぶ。				
授業計画	1. 法の概念 1) 法の概念 2) 衛生法 3) 厚生行政のしくみ 2. 看護法 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師等の人材確保に関する法律 3. 医事法 1) 医療法 2) 医療関係資格法 3) 保健医療福祉資格法 4) 医療を支える法 4. 保健衛生法 1) 共通保健法 2) 分野別保健法 3) 感染症に関する法 4) 食品に関する法 5. 薬務法 1) 薬事一般に関する法律 2) 人などの組織を用いた医療法関連 3) 薬害被害者の救済など 4) 麻薬・毒物など 6. 環境衛生法 1) 環境整備 7. 社会保険法 1) 費用保障 8. 福祉法 1) 福祉の基盤 2) 児童分野 3) 高齢分野 4) 障害分野 9. 労働法と社会基盤整備 1) 労働法 2) 社会基盤整備など 10. 環境法 1) 環境保障の基本法 2) 公害防止の方 3) 自然保護法				
教科書	看護関係法令（医学書院）				
参考書	特になし				
授業の進め方	講義				
評価の方法	筆記試験				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	看護研究Ⅰ			担当講師名	専任教員
対象学生	2学年	単 位	1単位(15時間)	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	エビデンスに基づく看護実践のための、看護研究の基本知識、文献の活用、研究方法を学ぶ。				
授業計画	1. 看護研究とは、看護研究の意義、リサーチクエスチョン、文献検索の意義 2. 済生会看護研究会の聴講 3. 済生会看護研究会の聴講 4. 研究の倫理、研究デザイン 5. 研究計画書の書き方と作成 6. 研究論文の構成、倫理審査申請書の書き方 7. クリティークの実際 8. データ収集と分析				
教科書	別巻 看護研究 医学書院				
参考書	南裕子、野嶋佐由美：看護における研究 第2版,日本看護研究出版会,2017 及川慶浩：はじめての看護研究 統計学編,メディカ出版,2012				
授業の進め方	講義・演習・聴講				
評価の方法	レポート内容				
メッセージ	看護師になると、必ず看護研究をすることになります。その時に活かせるよう、この講義で研究方法を学んでほしいと思います。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	臨床看護技術			担当講師名	専任教員 他
対象学生	2学年	単 位	1単位(15時間)	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	対象の状態に応じた看護の方法を考え、実践することができる。				
授業計画	1.オリエンテーション・事例紹介 2～8 事例患者に対して必要な診療の補助技術についての演習 （酸素療法・吸引・採血・導尿・洗腸・血糖測定・フィジカルアセスメント） 1) 基本的な手技の方法を理解し実践する ・なぜそのような方法で実施するのか根拠を十分に話し合う 2) 事例患者に必要な確認・観察など方法を考え実施する ・事例患者がより安全・安楽に援助を受けることができるよう話し合う				
教科書	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院） 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院）				
参考書	・看護が見える Vol.1・2 基礎看護技術 メディック・メディア ・事例を考えるための参考書				
授業の進め方	・グループごとに演習計画を作成し技術演習を行う				
評価の方法	・実技試験				
メッセージ	・実習室利用の心得（実習室）を熟読して参加してください。 ・初日から演習できるように必要なもの（テキスト・身だしなみ）を準備してください。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	地域・在宅看護論概論			担当講師名	教務主任 済生会職員
対象学生	2学年	単 位	1単位(30時間)	実務経験	保健師・看護師・介護支援専門員としての実務経験有
授業目標	地域・在宅看護の必要性和対象を理解する。 地域・在宅看護実践の場の連携や制度について理解する				
授業計画	（教務主任（保健師）：8時間） 1. 地域包括ケアシステム 地域・在宅看護の目的と特徴 2. 地域におけるライフステージに応じた看護（小児期） 3. 地域におけるライフステージに応じた看護（成人期） 4. 地域におけるライフステージに応じた看護（老年期） 5. 家族の理解 家族の現状（統計） 6. 地域における家族への看護 7. 地域での暮らしにおける災害対策 8. 地域・在宅看護における多職種連携 （済生会職員（看護師）：12時間） 9. 在宅看護にかかわる法令・制度 10. 介護保険制度 11. 訪問看護の制度 12. 訪問看護の制度：居宅サービス計画書 13. 訪問看護サービスの提供 14. 地域における多職種連携 （済生会職員（介護支援専門員）：2時間） 15. ケアマネジメントと社会資源				
教科書	地域・在宅看護論（1）「地域・在宅看護の基盤」医学書院 地域・在宅看護論（2）「地域・在宅看護の実践」医学書院				
参考書	国民衛生の動向、看護関係法令（医学書院） 講義プリントに参考資料として提示				
授業の進め方	パワーポイント ビデオ グループワーク				
評価の方法	筆記試験				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	地域・在宅看護援助論Ⅰ（介入時期別の看護）			担当講師名	専任教員 済生会職員
対象学生	2学年	単 位	1単位(15時間)	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	地域で生活する人々の健康の保持増進・疾病予防、介護予防について理解する。 地域・在宅看護の介入期別の看護を理解する。				
授業計画	専任教員（7回 13時間） 1. 入院前の看護師の役割・事例の理解 2. 在宅療養移行期・在宅療養安定期 3. 在宅療養者のアセスメント 4. 在宅療養者の看護計画 5. グリーフケアと訪問看護（医療保険と介護保険） 6. 訪問看護の倫理 7. まとめ 8. 退院支援について 済生会職員（1回 2時間）				
教科書	専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院				
参考書	専門分野 地域・在宅看護の基礎 地域・在宅看護論1 医学書院 別巻 家族看護学 医学書院 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度3 医学書院 別巻 看護倫理 医学書院				
授業の進め方	グループワーク、演習、個人記録				
評価の方法	筆記試験 事前課題				
メッセージ	在宅療養者の生活を考えながら、状況に応じた看護師の役割を理解してほしいです。また、社会資源としての訪問看護師や在宅療養に必要な制度の理解も深めていきましょう。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	地域・在宅看護援助論Ⅱ（疾患別の看護）			担当講師名	済生会職員 外部講師
対象学生	2学年	単 位	1単位(30時間)	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	疾患別の地域・在宅看護の実際を理解する。				
授業計画	外部講師（7回 14時間） 1. 在宅看護におけるフィジカルアセスメント 2. 在宅における緊急時対応 3. 意思決定支援と統合失調症に対する在宅看護 (身体障害者手帳/障害者自立支援法/生活保護) 4. パーキンソン病の療養者に対する在宅看護（教科書事例参照） 5. DVD学習 6. ALSに対する在宅看護（教科書事例参照） 7. 対象者の権利保障 済生会職員（3回 6時間） 8. 排泄に関する在宅看護技術 在宅医療技術（排便・ストーマ・CAPD） 9. 嚥下・栄養に関する在宅看護技術 在宅医療技術（嚥下訓練・PEG） 10. 在宅医療技術 在宅中心静脈栄養法 済生会職員（5回 10時間） 11～12. 呼吸機能に関する在宅看護技術 呼吸機能に関する在宅医療技術 (排痰・呼吸訓練・在宅酸素療法) 13. 認知機能のアセスメント法と援助技術 14～15. 在宅における終末期看護 在宅医療技術 疼痛緩和 * 上記内容は変更することがあります。				
教科書	地域・在宅看護論（1）「地域・在宅看護の基盤」医学書院 地域・在宅看護論（2）「地域・在宅看護の実践」医学書院				
参考書					
授業の進め方	講義、演習				
評価の方法	認定試験				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	地域・在宅看護援助論Ⅲ（看護過程と看護技術）			担当講師名	専任教員
対象学生	2学年	単 位	1単位(30時間)	実務経験	看護師・保健師としての実務経験有
授業目標	地域・在宅看護の展開のプロセスが理解できる 暮らしを支える看護技術について理解できる				
授業計画	1.暮らしを支える看護技術（コミュニケーション） 2-3.暮らしを支える看護技術（活動、清潔・衣生活、創傷管理に関する地域・在宅看護技術） 4.地域・在宅看護における看護過程 5.事例紹介 （ALS・パーキンソン病・在宅酸素療養者・認知症老々介護、糖尿病などの事例の中から看護展開していく） 6.事例の疾患理解と情報の整理 7-9.アセスメント 10. 関連図 仮問題 問題抽出 11.目標設定 計画立案 12.訪問時のマナー 技術演習の計画立案（グループワーク） 13-14.事例に必要な暮らしを支える看護技術演習（グループワーク） 15.まとめ				
教科書	地域・在宅看護論（1）「地域・在宅看護の基盤」医学書院 地域・在宅看護論（2）「地域・在宅看護の実践」医学書院				
参考書	介護保険に関する資料、看護技術に関する文献、地域・在宅看護に関する文献				
授業の進め方	グループワーク、演習、個人記録				
評価の方法	提出した記録内容 筆記試験				
メッセージ	事例を通して、療養者・家族の生活の場を考えた、看護過程の展開を学習していきます。 実際の訪問場面から情報収集し、療養者・家族を捉える視点を養っていきましょう。看護過程を展開し、必要な計画を考え、実施（演習）につなげていきます。 グループワークでは、メンバーと十分討議し、その中で在宅看護に対する考えを深めていってください。 療養者・家族の多様な生活と価値観があります。疾病や障害を持ちながら困難がありながらも、保健・医療・福祉の支援や地域社会の協力を得て日常生活を送っています。看護ケアを必要としている療養者・家族へ、可能な限り最良で最善のケアを提供するために、看護としての役割を考え、看護を展開していくための視点・知識を養っていききたいと思います。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	成人看護援助論Ⅱ（周術期の看護）			担当講師名	専任教員
対象学生	2学年	単 位	1単位(30時間)	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	各手術療法を学ぶことで術式や部位の違いから生じる看護の特徴を学習する。 手術を受ける患者（胃切除術後）のおこりうる問題を予測し、回復過程を支援するための考え方を習得する。				
授業計画	1.総論 周術期の患者のニーズ 手術侵襲と生体反応 周術期におけるチーム医療と看護師の役割 2.術前の看護 3.術中の看護 4.～7.術後の看護 術後合併症予防と回復促進 8.～10.胃切除術を受ける患者の看護過程を展開する 11.胃切除術後の患者のバイタルサイン測定と症状観察（演習） 12.胃切除術後の患者に必要な指導を考える 13.胃切除術後の患者の精神的、社会的側面をアセスメントする 14.肺切除術を受ける患者の看護 15.まとめ				
教科書	・系統看護学講座 臨床看護総論，基礎看護学4 医学書院 ・系統看護学講座 臨床外科看護総論，医学書院 ・系統看護学講座 臨床外科各論 医学書院 ・系統看護学講座 成人看護学5 消化器，医学書院 ・系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器，医学書院				
参考書	薬や検査データなど理解できるよう各自準備				
授業の進め方	総論は一斉講義 看護過程は課題学習を元にグループ演習				
評価の方法	総論は筆記試験 看護過程は授業・グループ演習の取り組み、課題学習の提出状況と内容 授業終了時の認定試験				
メッセージ	周術期の患者の状態に合った援助が、その時に実施できることが大切です。 そのために思考力を鍛えましょう。あきらめずみんなでがんばりましょう。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	成人看護援助論Ⅳ（慢性期の看護）			担当講師名	済生会職員 専任教員
対象学生	2学年	単 位	1単位(30時間)	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	経過が長く、完全な治癒が望めない対象者に対し、生活改善を含むセルフケアについて援助方法を学ぶ。				
授業計画	1. 糖代謝障害を持つ患者の看護 済生会職員（2回：4時間）済生会職員（3回：6時間） 1）糖尿病について、診断治療に関連した検査 2）糖尿病合併症について 3）糖尿病の治療、簡易血糖測定演習 4）低血糖時の看護、災害時の看護 2. 腎機能障害をもつ患者の看護 済生会職員（4回：8時間） 1）腎臓の構造と機能 2）CKDの看護 3）尿毒症、浮腫の看護 4）腎移植、血液透析、腹膜透析の看護 3. 慢性期疾患を持つ患者の看護展開（糖尿病患者の看護過程の展開） 専任教員（6回：12時間） 1）病態生理と事例患者の理解 2）情報の解釈と逸脱 3）情報の解釈と逸脱 4）関連図と問題リスト 5）計画立案 6）計画立案とまとめ				
教科書	・系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝，医学書院（済生会職員） ・系統看護学講座 成人看護学8 腎・泌尿器，医学書院（済生会職員） ・系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝，医学書院（専任教員） ・系統看護学講座 成人看護学3 成人看護学総論（専任教員）				
参考書	・日本糖尿病学会編・著 糖尿病治療ガイド ・落合慈之監修 糖尿病・代謝・栄養疾患ビジュアルブック ・日本糖尿病療養士認定機構編・著 糖尿病ガイドブック ・日本糖尿病教育・看護学会編 糖尿病看護フットケア技術 ・糖尿病食事療法のための食品交換表第7編 ・NANDA-I 看護診断 医学書院（専任教員） ・これなら使える看護診断 医学書院（専任教員）				
授業の進め方	講義、グループワーク				
評価の方法	筆記試験 事前課題				
メッセージ	高齢化が進む現代日本において、糖尿病や腎機能障害、肝硬変に罹患している患者は、実習でも就職後でも多く関わることとなるであろう。看護師国家試験にも頻出の疾患や看護でもあるため、1学年で学習した内容を基に深めてほしい。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	成人看護援助論Ⅴ（終末期の看護）			担当講師名	済生会職員																						
対象学生	2学年	単 位	1単位(30時間)	実務経験	医師・看護師としての 実務経験有																						
授業目標	終末期を含めた、あらゆる病期の患者・家族の全人的苦痛緩和を図り、患者がその人らしい人生を送り安らかな死を迎える援助方法を学ぶ。																										
授業計画	<table><tr><td>1. 緩和ケアの現状と展望</td><td>済生会職員（医師）</td></tr><tr><td>2. 緩和ケアにおけるチームアプローチ</td><td>済生会職員（医師）</td></tr><tr><td>3. 緩和ケアにおけるコミュニケーション</td><td>済生会職員（医師）</td></tr><tr><td>4. 緩和ケアにおける倫理的課題</td><td>済生会職員（看護師）</td></tr><tr><td>5. 全人的ケアの実践</td><td>済生会職員（看護師）</td></tr><tr><td>6. 緩和ケアの広がり</td><td>済生会職員（医師）</td></tr><tr><td>7. 臨死期のケア</td><td>済生会職員（看護師）</td></tr><tr><td>8. 家族のケア</td><td>済生会職員（看護師）</td></tr><tr><td>9. 医療スタッフのケア</td><td>済生会職員（看護師）</td></tr><tr><td>10. 緩和ケアに関する教育</td><td>済生会職員（看護師）</td></tr><tr><td>11. 精神的ケアにおける研究</td><td>済生会職員（医師）</td></tr></table>					1. 緩和ケアの現状と展望	済生会職員（医師）	2. 緩和ケアにおけるチームアプローチ	済生会職員（医師）	3. 緩和ケアにおけるコミュニケーション	済生会職員（医師）	4. 緩和ケアにおける倫理的課題	済生会職員（看護師）	5. 全人的ケアの実践	済生会職員（看護師）	6. 緩和ケアの広がり	済生会職員（医師）	7. 臨死期のケア	済生会職員（看護師）	8. 家族のケア	済生会職員（看護師）	9. 医療スタッフのケア	済生会職員（看護師）	10. 緩和ケアに関する教育	済生会職員（看護師）	11. 精神的ケアにおける研究	済生会職員（医師）
1. 緩和ケアの現状と展望	済生会職員（医師）																										
2. 緩和ケアにおけるチームアプローチ	済生会職員（医師）																										
3. 緩和ケアにおけるコミュニケーション	済生会職員（医師）																										
4. 緩和ケアにおける倫理的課題	済生会職員（看護師）																										
5. 全人的ケアの実践	済生会職員（看護師）																										
6. 緩和ケアの広がり	済生会職員（医師）																										
7. 臨死期のケア	済生会職員（看護師）																										
8. 家族のケア	済生会職員（看護師）																										
9. 医療スタッフのケア	済生会職員（看護師）																										
10. 緩和ケアに関する教育	済生会職員（看護師）																										
11. 精神的ケアにおける研究	済生会職員（医師）																										
教科書	・系統看護学講座 別巻 緩和ケア，医学書院																										
参考書																											
授業の進め方	講義、DVD																										
評価の方法	筆記試験																										
メッセージ																											

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	老年看護援助論Ⅰ(生活援助技術)			担当講師名	実習指導教員 専任教員
対象学生	2学年	単 位	1単位(30時間)	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	加齢による日常生活への影響を理解し、生活機能低下の予防と再獲得に向けた援助を習得する				
授業計画	1. 高齢者レクリエーション 1) 高齢者レクリエーションの意義や内容について 2) レクリエーションの企画と発表：グループでレクリエーションを企画し実施していく 2. 事例を用いた健康障害のある高齢者の看護過程の展開（グループで展開していく） 1) 加齢と疾病による日常生活への影響を関連図で理解する 2) 看護計画の立案 3. 高齢者の生活を支える援助技術（演習） 1) 事例に基づく看護計画の中から点滴のある患者の清拭と寝衣交換・陰部洗浄を実施する				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 老年看護学 病態・疾患論 医学書院				
参考書					
授業の進め方	教科書を使用し、講義・演習を中心に進めます				
評価の方法	レポート点と筆記試験で評価する				
メッセージ	・レクリエーションは老年看護学実習でも行うので、高齢者の特徴をふまえながら考えて実施してみましょう。 ・1年生で学んだ看護過程に老年の視点を加えながら、グループで意見交換をしながら関連図や看護計画を考えていきます。その計画に沿って演習しながら実践と計画のつながりを学んでいきましょう。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	老年看護援助論Ⅱ（健康障害時の看護）			担当講師名	済生会職員
対象学生	2学年	単 位	1単位(30時間)	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	高齢者の健康障害の特徴を理解し、健康障害に応じた看護について理解する				
授業計画	●済生会職員 8時間（4回） 1.健康逸脱から回復を促す看護（第6章） 1)症候のアセスメントと看護 2)身体疾患のある高齢者の看護 2.治療を必要とする高齢者の看護（第7章） 1)検査を受ける高齢者の看護 2)薬物療法を受ける高齢者の看護 3)手術療法を受ける高齢者の看護 ●済生会職員 14時間（7回） 1.認知症の定義、統計 「ぼけますから、よろしく願います」（DVD鑑賞）レポート提出 2.認知症の検査と診断、原因疾患の特徴、治療 3・4. 認知症ケアにおける倫理、ロールプレイ グループワーク 5.認知症ケアのアセスメント 認知症者とのコミュニケーション 6・7. 環境調整 認知症者の家族支援 認知症を取り巻く社会制度 認知症ケアの実際、グループワーク ●済生会職員 8時間（4回） 1.治療を必要とする高齢者の看護（第7章） 1)リハビリテーションを受ける高齢者の看護 2)入院治療を受ける高齢者の看護 2.エンドオブライフケア（第8章） 3.生活・療養の場における看護 4.高齢者のリスクマネジメント				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院				
参考書	なし				
授業の進め方	パワーポイント、教科書を使用した講義と演習を中心に進める。				
評価の方法	課題プリント（内容・提出状況）と認定試験で評価する。				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	老年看護援助論Ⅲ（看護過程）			担当講師名	専任教員
対象学生	2学年	単 位	1単位(15時間)	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	高齢者の特徴と健康障害の特徴をふまえ、生活機能に着目した看護過程の展開方法を理解する				
授業計画	1. 高齢者の特徴を踏まえたアセスメントの視点 2. 事例を用いた健康障害のある高齢者の看護過程 の展開（大腿骨頸部骨折） 1) 入院による影響と高齢者の特徴をふまえたアセ スメント 2) 看護問題の明確化 3) アセスメントに基づいた看護計画 4) 援助の実施・評価				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院				
参考書	なし				
授業の進め方	看護過程はグループワークを取り入れ、各自で自己の課題に取り組む。				
評価の方法	課題プリント（内容・提出状況）と認定試験で評価する。				
メッセージ	・ 老年の視点を加えながら看護過程の展開を行います。まずは個人で取り組み考えることが重要ですが、それをグループで共有したり意見交換する中で看護過程についての理解を深めていきます。提出点もあるのでしっかり取り組んでいきましょう。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	小児看護援助論Ⅰ（小児特有の疾患と看護）			担当講師名	済生会職員
対象学生	2学年	単位	1単位(30時間)	実務経験	医師・看護師としての 実務経験有
授業目標	小児特有の疾患の特徴と看護について理解する。				
授業計画	1. 小児の概要 2. 先天異常と看護 3. 新生児の看護 4. 代謝性疾患と看護 5. 内分泌疾患と看護 6. 循環器疾患と看護 7. 血液・造血器疾患と看護 8. 悪性新生物と看護 9. 腎疾患と看護 10. 神経疾患と看護 11. アレルギー性疾患と看護 12. 感染症と看護 13. 呼吸器疾患と看護 14. 消化器疾患と看護 15. 消化器疾患と看護 } 済生会職員（医師）（20時間） } 済生会職員（看護師）（10時間）				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院				
参考書					
授業の進め方	小児特有の疾患を中心に講義形式で進める。				
評価の方法	筆記試験				
メッセージ	子どもは自ら正確な症状を伝えることができない場合があります。小児特有の疾患の特徴を理解したうえで、発達段階に応じた観察方法や看護を修得しましょう。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	小児看護援助論Ⅱ（様々な状況にある小児と看護）			担当講師名	済生会職員 教務主任
対象学生	2学年	単位	1単位(30時間)	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	健康障害の病期別およびさまざまな状況にある小児と家族の看護について理解する。				
授業計画	1 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 2-3 子どもの状況に特徴づけられる看護 入院、外来、在宅療養、災害 4-5 子どもにおける疾病の経過と看護 ① 慢性期にある子どもと家族の看護 ② 急性期にある子どもと家族の看護 ③ 周手術期の子どもと家族の看護 6-7 検査・処置を受ける子どもの看護 } 済生会職員 14時間 8-10 子どものアセスメント ① アセスメントに必要な技術 演習：発達段階に合わせたコミュニケーションを考え、 バイタルサインの測定を行う ② 身体的アセスメント 11-13 症状を示す子どもの看護 14 障害のある子どもと家族の看護 15 子どもの虐待と看護 } 教務主任 16時間				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院				
参考書					
授業の進め方	講義形式で進めていくが、学生同士で考える機会を取り入れ、理解が深まるようにする。				
評価の方法	筆記試験				
メッセージ	子どもの看護は、発達段階に合わせて考えることに加え、様々な状況に合わせて考えることが大切になります。 どのような状況にも対応できるように知識の修得に努めましょう。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	小児看護援助論Ⅲ（看護過程）			担当講師名	教務主任
対象学生	2学年	単位	1単位（15時間）	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	小児期にある患者の問題を把握し、問題解決のための展開技法を理解する。				
授業計画	1. 小児の看護過程の特徴を理解する 2. 事例紹介 3. 事例について理解を深める 4-6. 問題の明確化に向けて検討する(解釈・逸脱の判断) 7. 問題を明確にし、計画立案を行う 8. まとめ				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論			医学書院	医学書院
参考書	NANDA-1 看護診断 2021-2023 医学書院 実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド 照林社				
授業の進め方	グループワークを行い、他者と協力して問題解決していく 最終的に個々の理解度を確認する				
評価の方法	筆記試験 課題提出状況、グループワークでの学習態度				
メッセージ	子どもへの適切な看護を実践するためには、正しい判断が必要になります。発達段階に合わせた看護技術を習得し、看護過程を学ぶことで問題解決能力を身に付けていきましょう。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	母性看護援助論Ⅰ（周産期の経過）			担当講師名	外部講師 済生会職員
対象学生	2学年	単 位	1単位(15時間)	実務経験	医師としての実務経験有
授業目標	妊娠期・分娩期・産褥期における正常な経過、異常な経過の基礎的知識を学ぶ				
授業計画	1・2. 妊娠の正常経過 （外部講師：5回 10時間） 1）出生前診断 2）妊娠の生理 3）胎児の発育とその生理 3・4 分娩の正常経過 1）分娩の要素 2）分娩の経過 5 産褥・新生児の正常経過 1）産褥経過 2）新生児の生理 6・7. 異常妊娠、異常分娩 （済生会職員：3回 5時間） 8. 異常産褥				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2				
参考書					
授業の進め方	周産期の経過別看護は、講義形式で妊娠・分娩・産褥と経過を追って授業を行う。分娩機序等はわかりやすく模型を用いて理解させる				
評価の方法	終講時の筆記試験				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	母性看護援助論Ⅱ（妊娠期・分娩期の看護）			担当講師名	済生会職員 専任教員
対象学生	2学年	単 位	1単位(30時間)	実務経験	助産師・看護師としての 実務経験有
授業目標	妊娠期、分娩期の妊婦および産婦に対し必要な看護を学ぶ 逸脱状態である妊娠期・分娩期の異常状況にある妊婦・産婦の看護を学ぶ				
授業計画	1～6 妊娠期にある妊婦と胎児のアセスメントと看護 （済生会職員（助産師）：6回 12時間） 1）妊婦の心理 2）社会的特性 3）妊婦と胎児のアセスメント 4）家族の看護 7～9 妊婦への看護技術と看護過程 （専任教員（看護師）：3回 6時間） 10～14 分娩期にある産婦と胎児・家族のアセスメントと看護 （済生会職員（助産師）：5回 10時間） 1）分娩第1期～4期までの看護 15. 産婦への看護技術と看護過程 （専任教員（看護師）：1回 2時間）				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2				
参考書	病気が見える（母性）キーポイントシリーズ母性Ⅰ				
授業の進め方	妊娠・分娩の経過に沿っての看護ケアについて授業を行う。				
評価の方法	筆記試験				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	母性看護援助論Ⅲ（産褥期・新生児期の看護）			担当講師名	済生会職員 専任教員
対象学生	2学年	単 位	1単位(30時間)	実務経験	助産師・看護師としての 実務経験有
授業目標	産褥期の褥婦に必要な看護および逸脱状況にある産褥期の看護を学ぶ 出産直後の新生児の胎外生活への適応や生理的变化に対して必要な看護・養護を学ぶ				
授業計画	1.～4 産褥期にある褥婦のアセスメントと看護（済生会職員（助産師）：4回 8時間） 1）身体的変化 2）産褥の心理 3）社会的変化 4）産褥期のアセスメント 5）家族の看護 6）産褥の異常と看護 5.～9 褥婦への看護技術と看護過程（専任教員（看護師）：5回 10時間） 10.～13 出生直後の新生児の経過と新生児のアセスメントと看護（済生会職員（助産師）：3回 6時間） 14.15. 新生児の看護技術と看護過程（専任教員（看護師）：3回 6時間）				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2				
参考書	病気が見える（母性）キーポイントシリーズ母性Ⅱ				
授業の進め方	産褥・新生児の経過に沿っての看護ケアについて授業を行う。				
評価の方法	筆記試験				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	精神看護学概論			担当講師名	外部講師 済生会職員
対象学生	2学年	単 位	1単位(30時間)	実務経験	看護師・臨床心理士としての実務経験有
授業目標	ライフサイクルにおける心の発達と健康について理解できる。 社会の変化に伴う精神保健医療の変遷について学び、現状の問題や課題が考えられる。 精神保健活動における看護者の役割について理解できる。				
授業計画	（済生会職員（臨床心理士） 7回：14時間） - 心のはたらきと人格の形成 - 心のはたらき - 心のしくみと人格の発達 - 関係のなかの人間 - システムとしての人間関係 - 全体としての家族 - 人間と集団 - 精神保健の考え方 - 精神の健康とは - 心身の健康に及ぼすストレスの影響 - 心的外傷（トラウマ）と回復 - 精神障害という考え方 （外部講師（看護師） 8回：16時間） - 社会のなかの精神障害 - 精神障害と治療の歴史 - 日本における精神医学・精神医療の流れ - 精神障害と文化 - 精神障害と社会学 - 精神障害と法制度				
教科書	精神看護の基礎（医学書院） 済生会職員（臨床心理士） 精神看護の展開（医学書院）				
参考書	配布資料				
授業の進め方	講義 障害者の現状について動画視聴を行う（外部講師（看護師）） 上記授業計画の内容について、適宜補足しながら解説する。				
評価の方法	筆記試験				
メッセージ	心という目に見えないものを、さまざまな角度からとらえ、理解を深めましょう。精神障害者に対しての歴史的経過が分かり、現在も残る障害者福祉などの課題について考えられたらと思います。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	精神病態臨床学			担当講師名	済生会職員 外部講師
対象学生	2学年	単 位	1単位(30時間)	実務経験	医師・看護師としての 実務経験有
授業目標	精神疾患の現れ方の特徴と、精神疾患の診断と分類がわかる。 主な精神疾患の特徴と症状、治療方法について理解する。				
授業計画	済生会職員（医師）（3回：6時間） 1. 発達障害 2. 認知症 3. せん妄 外部講師（医師）（7回：14時間） テキスト精神看護の基礎 【第5章】精神疾患の現れ方 精神症状論と状態像 診断と疾病分類 ①気分障害 ②神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 恐怖症性不安障害・強迫性障害・ASD・PTSD・解離性障害・身体表現性障害 ③精神作用物質使用による精神および行動の障害 アルコール依存症・アルコール以外の精神作用物質使用による精神、行動の異常・ゲーム・ギャンブル依存 ④各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調（知的障害・てんかん・摂食障害・睡眠障害） 【第6章】精神科での治療 外部講師（看護師）（5回：10時間） 精神看護の基礎【第5.6章】 1. 統合失調症について 2. パーソナリティ障害 3. 適応障害				
教科書	精神看護の基礎 精神看護学1 医学書院 精神看護の展開 精神看護学2 医学書院				
参考書	精神看護エクスペール^⑭ 中山書店 精神神経疾患ビジュアルブック 学研				
授業の進め方	講義形式				
評価の方法	講義終了後に筆記試験を行う				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	精神看護援助論Ⅰ(精神看護の基礎)			担当講師名	外部講師
対象学生	2学年	単 位	1単位(15時間)	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	精神の健康と不健康について考えることができる。 看護師-患者関係の意義と関係成立のための方法、発展過程が理解できる。 看護師-患者関係を成立させるための方法が理解できる。				
授業計画	1. 「心のケア」と現代社会：災害と「心のケア」、メンタルヘルス問題 （1）精神看護学とその課題：精神科医療の現状と課題 （2）精神障害の体験と精神看護：病的体験とその苦痛、生きにくさについて 2. ケアの人間関係 （1）ケアの前提：自分について、相手にについて知ること （2）ケアの原則：人としての尊厳を尊重する、お互いの境界をまもる 3. ケアの方法 （1）関係をアセスメントする （2）患者－看護師間でおこること：患者と看護師の関係の中での感情について 4. 回復を助ける （1）回復の意味 （2）入院治療の目的と意味、治療的環境 5. 安全を守る （1）リスクマネジメント （2）行動制限 *2から5に関連して患者理解のための情報収集、見かた、考え方を行います				
教科書	精神看護の基礎 精神看護学Ⅰ 医学書院 精神看護の展開 精神看護学Ⅱ 医学書院 精神看護学 学生・患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版				
参考書	学生のための精神看護学 医学書院 精神看護学①精神看護学概論 精神保健 メヂカルフレンド社 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社				
授業の進め方	主に講義形式で行う。精神看護学に関するビデオの視聴を行うこともある。講義の後半で、多様な患者さんの背景に対する情報収集に関してグループワークを行う。				
評価の方法	講義の終了後に筆記試験を行う。				
メッセージ	精神的な健康については、社会的にも大きな課題となっています。精神障害は特別なものではないことを知しましょう。 また、障害があり、社会で生活する中での困難さについても目を向けましょう。				

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	精神看護援助論Ⅱ（看護の展開）			担当講師名	外部講師
対象学生	2学年	単 位	1単位(30時間)	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	主な精神疾患において、対象の特徴を理解し、看護が展開できるようにする。 対象者の経過に応じた看護について理解することができる				
授業計画	外部講師・・・16時間 1. 精神科の治療と看護（岡山県精神科医療センターの紹介） 2. ケアの人間関係 3. 回復を助ける 4. 安全をまもる（行動制限・精神保健福祉法） 5. 安全をまもる 6. 事例検討 外部講師・・・14時間 1. 地域におけるケアと支援 1) 関係法規と社会資源 2) 学校におけるメンタルヘルスと看護 3) 職場におけるメンタルヘルスと看護 2. 入院治療の意味 3. 災害時のメンタルヘルスと看護（VTR視聴） 4. 医療の場におけるメンタルヘルスと看護 5. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス				
教科書	精神看護の基礎 精神看護学1 医学書院 精神看護の展開 精神看護学2 医学書院				
参考書					
授業の進め方	講義・グループワーク・VTR視聴				
評価の方法	筆記試験 筆記試験・レポート				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	災害看護と国際看護			担当講師名	済生会職員 専任教員 外部講師
対象学生	2学年	単 位	1単位（30時間）	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	地域や諸外国、病院における健康危機管理と災害に対する防災、災害時の対応について理解する。また、済生会の精神にのっとり、被災者の健康や生活行動への援助、災害時に必要な基礎技術を習得する。 国際社会における保健・医療・福祉の実情を知り、国際看護活動について考える。				
授業計画	1 災害、災害看護の概要（済生会職員） 1)災害の定義と分類、災害看護の定義と目的 2)災害各期の特徴、災害にかかわる法制度 2-6 災害看護の展開（済生会職員） 1)災害各期における看護活動 2)災害とこころのケア 3) 病院における災害看護 7-9 災害時に必要な技術（済生会職員） 1)災害時の看護支援活動の実際 2)緊急措置 10-13 災害救護訓練（専任教員） 1)災害現場での活動について 2)災害時に必要な基本的な行動 3)災害時急性期に必要な看護技術 14-15 国際看護（外部講師） 1)国際看護とは 2)国際協力の仕組み 3)国際看護活動の展開				
教科書	看護学概論（医学書院）,災害看護学・国際看護学（医学書院）				
参考書					
授業の進め方	講義、実技				
評価の方法	災害救護訓練の参加状況 記述テスト				
メッセージ					

2025年度授業計画（シラバス）

教授科目	医療安全			担当講師名	済生会職員
対象学生	2学年	単 位	1単位（15時間）	実務経験	看護師としての実務経験有
授業目標	患者の安全を最優先に考え、チーム医療における医療事故予防のための正しい判断を行う能力を養う。				
授業計画	1.医療安全とは、医療事故とは 2.業務領域を越えて、共通する間違いと発生要因 （患者間違いとコミュニケーションエラー） 3.患者に投与する業務における事故防止 （注射、点滴、内服、経管栄養） 4.継続中の危険な行為の観察・管理における事故防止 5.療養上の世話の事故防止 （転倒・転落・誤飲） 6.検査・処置・手術に関連する事故 7.危険の体験（K Y T） 8.危険の体験（K Y T） まとめ				
教科書	医療安全（医学書院）				
参考書					
授業の進め方	講義（パワーポイント使用） 演習				
評価の方法	筆記試験				
メッセージ					